



《将来に向けた取組方針》

NECグループは、生物多様性が持続可能な社会にとって重要な基盤であるという認識のもと、生物多様性に関する国際的な憲章や枠組みを尊重し、事業活動や従業員の生活が及ぼす影響を出来る限り少なくしていくとともに、生物多様性に貢献する従業員の活動や、ITソリューションの提供を積極的に推進していきます。

(1) NEC田んぼ作りプロジェクト

2004年から霞ヶ浦の水源である耕作放棄地再生および生物多様性保全を目的とした活動を推進。本プロジェクトのフィールド（茨城県牛久市）が環境省「モニタリングサイト1000」に認定され、これに則した生態系調査を2024年より開始（注1）。本取り組み内で、NECとともに種の多様性を評価する技術として注目されている環境DNAを用いた研究も進めています。



再生前後の谷津田（谷地にある田んぼ）

(2) チャリティハーブガーデン活動

本社のある東京都江東区で、2006年に地域の景観美化を目的にコミュニティガーデン活動を開始。地域住民と共にガーデンを維持管理しながら、ガーデンで採れたハーブで加工品を作成、それを地域イベントでチャリティ販売し、翌年度の花苗基金として活用しています。本活動は2022年に制定された「東京都生物多様性地域戦略」（注2）で定められる基本戦略「Tokyo-NbS」（注3）にも合致し、生物多様性の推進に貢献しています。



田植え活動の様子



戻ってきた生き物たち



合同ラベンダー摘み



生き物の憩いの場にも

（注1） <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000449.000078149.html>

（注2） <https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/basic/plan/nature/strategy.html>

（注3） Nature-based Solutionsの略。自然を活用した解決策となる取組を行政・事業者・民間団体など各主体が共に推進する活動